



ニチレイフレッシュの取り組み

事業と環境負荷の特性

ニチレイフレッシュは、水産・畜産の素材品および加工品をお客様にお届けしています。国内はもとより世界各国から素材を調達しており、資源や環境にも配慮していくことが重要と考えています。特に「こだわり素材」の開発に力を入れており、水質や土壌への影響をできる限り低減した養殖・飼育で環境に配慮した商品・サービスの提供に努めています。

2006年度環境目標と実績

	2006年度目標	実績
廃棄物削減と再資源化	水産：最終処分廃棄物量を2005年度(231トン)以下にする	62トンに削減
	水産：ごみゼロを1事業所で達成	1事業所で達成
	畜産：最終処分廃棄物量を1999年度比60%削減	1999年度比60.7%削減
地球温暖化防止	生産トン当たりのCO ₂ 排出量を1999年度比12%削減	1999年度比5.1%削減
環境に配慮した商品・サービスの提供 (活動事例についてはP14-15をご覧ください)	養殖時の薬剤使用を低減したえびの取扱い拡大 養殖えびに占める売上比率60%	売上比率48.4%
	肥育段階での薬剤使用を低減したFAチキン、 オーガニックチキンの取扱い拡大 年間取扱量2,300トン	年間取扱量3,370トン

自己評価

- 2003～06年度中計では、環境に配慮した商品提供について初めて目標を設定し取り組みました。養殖えびに関する目標については目標未達でしたが、調達時における環境への配慮に対する意識は大きく高まりました。今後はさらにこの取り組みを強化していきます。
- 事業所(加工場)におけるCO₂排出量の削減は、生産量が減少し、エネルギー使用効率が悪化したこともあり、目標を大きく下回りました。事業所の特性を考慮し、省エネ運転の推進や生産工程の見直しなどの対策を講じていきます。

2009年度までの3カ年目標と2007年度目標

	2007～2009年度目標	2007年度目標
廃棄物削減と再資源化	全廃棄物再資源化の仕組み構築	未達成事業所の委託先見直し
地球温暖化防止	生産トン当たりのCO ₂ 排出量を1999年度比15%削減	対策の立案、実施
環境に配慮した商品・サービスの提供	養殖時の薬剤使用を低減したえびの取扱い拡大 養殖えびに占める売上比率60%	売上比率55%
	FAチキン、オーガニックチキンの取扱い拡大 年間取扱量4,000トン	年間取扱量3,500トン
	新たなFA商品の開発推進	フェロー産の養殖鮭の取り組み
	MSC漁業認証取得商品への取り組み	漁業認証、COC認証の可能性を検討
	バイオマス発電を利用した養鶏事業への取り組み	日産3,000羽の生産

※ 上記以外のグループ2010年度目標についても事業活動に沿って継続的に取り組み実施



ニチレイバイオサイエンスの取り組み

事業と環境負荷の特性

ニチレイバイオサイエンスは、抗体製品・キット製品および、機能性素材・培地製品の研究開発・製造・販売を行っています。当社における環境負荷は、生産工場(バイオサイエンス開発センター)から排出される廃棄物と電力使用に伴うCO₂の排出が大きなものです。また、製品の包装資材や営業活動で使用される販売促進資料など、自ら調達を行っているものについては、より環境に配慮されているものを積極的に選択することで負荷を抑えることができます。こうした点を踏まえ、廃棄物の削減と再資源化、地球温暖化防止、環境に配慮した商品・サービスの提供に重点的に取り組んでいます。

2006年度環境目標と実績

	2006年度目標	実績
廃棄物削減と再資源化	再資源化率85%達成	再資源化率85% (参考:最終処分廃棄物量2003年度比65.8%削減)
環境に配慮した商品・サービスの提供	目標の設定	容器包装資材における再生紙使用の目標を設定

自己評価

- 廃棄物の分別回収と再資源化の推進を徹底するとともに、原料・製品の梱包材などの再利用を進めたことにより目標を達成できました。再資源化ができていない、ガラス屑、医療用廃棄物についても処理業者選定を継続し、早期再資源化に取り組んでいきます。
- これらの取り組みを強化するため、2007年度より環境への影響が大きい生産工場(バイオサイエンス開発センター)において、各部署の代表者で構成される専門委員会「エコロジー委員会」による活動を開始しました。委員会メンバーを中心に環境負荷の測定や著しい環境負荷の特定に取り組むことで、従業員が主体的に環境負荷低減活動を推進することをねらいとしています。

2009年度までの3カ年目標と2007年度目標

	2007～2009年度目標	2007年度目標
廃棄物削減と再資源化	再資源化率95%	再資源化率90%
地球温暖化防止	売上高当たりのCO ₂ 排出量を2004年度比2%削減 対象:バイオサイエンス開発センター	省エネ管理手法の修得 電力使用量を個別に監視・測定するためのシステムの導入等
環境に配慮した商品・サービスの提供	紙製ラベル導入率50%	ラベル導入率5%
	海外調達品を含め、包装資材(箱素材、能書)について再生紙(R100)の利用を推進	全ての国内調達資材について再生紙(R100)を使用

※ 上記以外のグループ2010年度目標についても事業活動に沿って継続的に取り組み実施